



興福寺(こうふくじ)は、奈良県奈良市登大路町(のぼりおおじちょう)にある、南都六宗の一つ、法相宗の大本山の寺院である。南都七大寺の一つに数えられる。藤原氏の祖・藤原鎌足とその子息・藤原不比等ゆかりの寺院で、藤原氏の氏寺であり、古代から中世にかけて強大な勢力を誇った。南円堂は西国三十三所第9番札所である。「古都奈良の文化財」の一部として世界遺産に登録されている。

京都山科の藤原鎌足私邸に建立された山階寺が前身。飛鳥を経て、和銅3(710)年平城遷都に伴い、藤原不比等によって現在地に移転され、興福寺と名付けられた。以降、藤原氏の氏寺として大いに繁栄した。奈良時代初期には四大寺の一つにあげられ、四町四方に170坊あまりの堂舎が立ち並ぶ寺院として隆盛を極めた。治承4(1180)年の平重衡の南都焼討ちによって焼失した堂塔は、鎌倉時代に復興を遂げるが、その後、享保2年(1717)の火災によって、伽藍の西半分を失った。

境内には光明皇后創建とされる五重塔(室町時代再建・国宝)、北円堂(鎌倉時代再建・国宝)の国宝建築物をはじめ、南円堂(江戸時代再建・重要文化財)、国宝館などが立っている法相宗の大本山。また多くの仏教彫刻の名品を所蔵している。(世界遺産)



0001_中金堂(復元中)



0002_五重塔



0003_五重塔



0004_五重塔



0005_五重塔



0006_五重塔



0007_五重塔



0008_五重塔



0009_五重塔



0010_五重塔



0011_五重塔



0012_五重塔



0013_五重塔



0014_五重塔



0015_五重塔



0016_五重塔



0017_五重塔



0018_五重塔



0019_五重塔



0020_五重塔



0021_五重塔



0022_五重塔



0023_五重塔



0024_五重塔



0025_五重塔



0026_五重塔



0027_南円堂



0028_本坊 表門



0029_本坊 表門



0030_東金堂



0031_東金堂



0032_東金堂



0033_東金堂



0034_東金堂



0035_東金堂



0036_東金堂



0037_東金堂



0038_東金堂



0039_東金堂



0040_東金堂



0041_東金堂



0042_東金堂



0043_東金堂



0044_阿修羅像



0045_阿修羅像